

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!



榛村純一副会長

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL : <http://www.moritohto.jp>

- | | |
|---|---|
| 2 本部情報
第34回定時総会開催 | 6 県庁だより①
未来への森づくりタウンミーティングの開催～森の力再生事業の今後のあり方について～ |
| 3 支部だより①
富士南麓木材生産倍増プロジェクト | 7 県庁だより②
研究成果発表会を開催 |
| 4 支部だより②
オクシズ森林の市～林業家と市民の「心」通わす出会いの場～ | 8 本部情報 |
| 5 支部だより③
命を守る希望の森づくりプロジェクト | 8 事務局だより |

本部情報

第34回定時総会開催

8月28日、会員をはじめ、県議会や国・県の行政機関等の来賓のご出席を賜り、第34回定時総会が開催され、平成26年度事業報告及び決算、役員を選任など全ての議案が原案どおり可決されました。副会長及び来賓のあいさつ要旨をご紹介します。なお、今回の総会で新たに選任された役員の方々の名簿と事務局体制は8ページに掲載しましたのでご覧ください。

副会長挨拶

県森連代表理事会長
榛村 純一 氏



本日はご来賓や会員の皆様方には第34回の定時総会にご出席いただき誠にありがとうございます。本協会は昭和57年に治山林道協会など林業関係6団体が合併して発足し、4年前には新たに公益社団法人の移行認定を受け協会運営を行っています。

森林・林業を取り巻く情勢が厳しい中ではありますが、追い風も吹き始めており、今年の県内トピックスは、(株)ノダの稼働により月1万㎡の安定した需要が生れたことをはじめ、鈴木康友会長の強力な指導のもと、浜松市・天竜林業界が一体となり森林認証材をオリンピックで使ってもらえるよう行動を起こすなどの新しい動きがあげられます。

森林整備事業などの公共予算が厳しい中、森の力再生事業が最終年度になりました。まだまだ荒れた森林がある中で、効果の大きな本事業は継続が必要であり、協会としても重要な推進項目として頑張りたいと思います。

一方、県が進める県産材50万㎡生産に向けては、山林所有者の手取りが少ないから伐らないという課題もありますので、生産コスト低減に向けた機械化・集約化・林業技術者確保対策の内、協会は林業技術者の技術力向上、人材養成、就労環境の改善などに力を入れていきます。数々の課題解決に向け、本日ご出席の来賓の皆様のご指導をお願いするとともに、会員の皆様の一丸となった努力・協力をお願い申し上げます。

来賓祝辞

静岡県知事 代読
交通基盤部理事
松本 豊 氏



本県では、本年7月に韮山反射炉が新たに世界文化遺産に登録されたところですが、同じく世界文化遺産である富士山や、ユネスコ・エコパークに登録された南アルプスなど、世界水準の魅力有しており、これらを育てているのが、豊富な資源を有する森林であります。

県では、この豊かな森林資源の活用を図るため、平成24年度から、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んでおります。これまでの取組により、森林施業の集約化や林内路網などの基盤整備が進むとともに、合板工場の新設や製材工場の規模拡大などによって、50万㎡の丸太の受け入れ体制が整うなど、一連の仕組みづくりが完了いたしました。

本年度からは、プロジェクトの第2ステージとして、製材工場等への木材安定供給の実践などに取り組むことで、生産から利用までの仕組みを効果的に動かして定着を図り、本県の森林・林業、木材産業の再生に繋げてまいります。

一方、近年頻発する豪雨災害に対しては、治山事業や森の力再生事業を積極的に実施しているところです。

また、本年度で10年間の事業計画が完了する「森の力再生事業」は、タウンミーティングの開催等を通じて市町や県民の皆様などの御意見を伺ったところであり、現在、今後の事業のあり方を検討しているところであります。

静岡県知事 川勝平太（代読）

平成27年度
静岡県山林協会 第34回定時総会



菊地伊豆市長 北村藤枝市長
榛村副会長 松井掛川市長

静岡県議会 議長
吉川 雄二 氏



貴協会には、日頃から、県土の保全と山村の振興のため、多大な御尽力をいただいておりますことに、深い敬意を表し、心より感謝を申し上げます。さて、法隆寺金堂の大修理などを手がけ木の良さを知り尽くした今は亡き西岡常一さんは生前、「自然がなくなったら人間の世界がなくなる。木がなくなれば人間は滅びてしまう。木も人間もみんな自然の分身だから、お互い等しくつきあっていかなければならない。」と繰り返し警鐘を鳴らしておられました。

法隆寺の建材は樹齢1000年から1300年のヒノキなのだそうですが、私たちには到底思いもよらぬ長い時間軸の中を、森の木々は厳しい環境にもじっと耐え、生存競争を勝ち抜いたものだけが立派に育っていきます。

このように、森の生命は相当に長い年月をかけて育まれるものですから、今の私たちにできることは、森に目を向け、足を運び、自然を尊ぶ心を取り戻し、世代をつないで森を守る精神を整えていくことしかないように思います。

私ども県議会といたしましても、皆様にも一層の御尽力をお願い申し上げます。

結びに、静岡県山林協会の益々の御発展と、御列席の皆さまの御健勝、御多幸を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

支部だより①

富士南麓木材生産倍増プロジェクト

静岡県富士農林事務所

富士農林事務所からは、木材生産量がぐんぐん伸びる成果をあげているプロジェクトについて紹介をいただきました。

はじめに

富士農林事務所では、富士市内の木材生産量を倍増^{注1}し、富士宮市も含めた富士地域全体の産地の強化を図り、併せて次世代に誇ることができる森林を残していくため、平成24年から官民一体で取り組む「富士南麓木材生産倍増プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）」を進めています。

今回は、このプロジェクトの平成26年度の実績と今後の計画等について紹介します。

注1 富士地域は、木材生産が順調に増加を続けている林業の新興地域だが、木材生産量の内訳は、8割を占める富士宮市に対して、富士市は2割にとどまって状況

平成26年度の事績

プロジェクトでは富士市内の木材生産量をH23実績と比較して2倍増、富士市森林組合に関しては3倍増を目標に掲げて取り組んできたところ、26年度は同組合が着実に木材生産を進め目標をほぼ達成量することができました。

これは、官民一体となってこのプロジェクトを進める中で、木材増産に対する意欲が一層高まり、富士市森林組合及びその協力事業体の持っている潜在能力を引出したことで、また、富士市内に新たな木材の需要先

(株)ノダの合板工場などB材、C材を原材料とする施設)が整備されたことなどが要因となったと考えています。

今後のプロジェクト

プロジェクトは、当初の目標は達成しましたが、県が掲げている29年度木材生産量の目標50万m³達成に向けて、富士市域の木材安定供給体制のさらなる強化を図るため、新たに次の2つの取組を加えて継続することにしました。

- 木材生産として、利用間伐を中心に労働生産性と単位面積当たりの生産量を高める取組を進めてきましたが、管内のスギ・ヒノキ人工林の9割が46年生以上と齢級構成に偏りが生じていることから、林齢の平準化、森林吸収源機能の向上、安定的な木材生産のため「皆伐・再造林に

よる循環型施業の検証」を行います。

- 森林経営計画策定をより一層進めるためには、小規模模森林所有者や森林との関わりが薄い所有者の集約化が不可欠なので「行政と森林組合等が連携した集約化」を推進していきます。

おわりに

今後、木材生産を担う森林組合など林業事業体には、前述の新たに整備された木材需要先に、定時、定量、安定的に木材を供給していくことが求められています。

造林補助金等間伐関連予算の確保が厳しくなる中、農林事務所としては事業体に対して、これまで以上に労働生産性を向上させ採算性を高める取組を進めるよう指導・助言していきます。



▲富士市有林での間伐



▲土場の状況

【木材生産量】

単位：m³

区分	富士市森林組合	民間林業事業体	合計	備考
H23実績	4,700	7,800	12,500	
H26実績	14,000	8,000	22,000	森林組合3倍増、市全体1.8倍

支部だより②

オクシズ森林の市 ～林業家と市民の「心」通わす出会いの場～

静岡市経済局 農林水産部 中山間地振興課

静岡市からは、協会支部活動費も活用して消費者に静岡市産木材の素晴らしさを伝えるイベントについて紹介をいただきました。

地域材商品を選ぶ消費者は何故「地域材」を選んだのでしょうか。品質？コスト？環境面？、そして消費者は地域材を利用したことに「満足」しているのでしょうか。

静岡市では、市内に木造住宅を建築する方に静岡市産木材の構造材・内装材を提供する静岡ひのき・杉の家推進事業を実施しています。補助実績は毎年右肩上がり続け、平成26年度は増税の反動による住宅着工件数の落ち込みにも関わらず、構造材184件、内装材113件の実績をあげました。

地域材の利用は地域の経済活性化に寄与するほか、地域の森林保全、環境負荷低減など公共性をもってのことから利用が促進されています。

しかしながら静岡ひのき・杉の家推進事業を利用した工務店を訪問し、施主が地域材を利用することをどう考えているかを聞いたところ、「行政

から補助があるから地域材を利用した」「杉・桧の価格がさがってきたから」など多くの方は木材産地に関する意識が低く、コスト面を重要視する傾向がありました。

地域材を利用していただいたのであれば、せめてその素晴らしさを伝えることが必要なのではないでしょうか。

「オクシズ森林の市」は地域材を利用して住宅を建てていただいた方に、地域材を利用したことの素晴らしさを伝えたいという想いからスタートしました。

市内の林業家、製材、木材加工業者、林業機械販売業者など多くの業界関係者がこの想いに賛同し、イベントでは伐倒見学、林業機械との写真撮影、木工作ワークショップ、森林・林業クイズ、木工品販売など盛りだくさん、地域材に対する想いを詰め込みました。

また工務店にもご協力いただき、静岡ひのき・杉の家推進事業を利用した方、これから木造住宅を建築する方を中心にイベントの広報を行いました。

当初は200～300人程度の来場を予想していた「オクシズ森林の市」でしたが、平成25年度の第1回では約1,000人が来場し、会場の静岡市林業センター、千代みどりの森はかつてないほどの賑わいになりました。平成26年度の第2回では製材所見学バスツアーを実施、工務店にも出展いただくなどイベント内容を更に充実させ約2,500人が来場する一大イベントに成長しました。



実際に山を管理している地域の林業家がどんなふう、どんな考え・想いをもって木材生産をしているのか、製材所、木材加工業者が何故杉・桧にこだわるのか、工務店が木造住宅にける想い、伝えるべき人が直接、見せて聞かせること。そうすることで初めて、地域材を利用してよかったと「頭」ではなく「心」で感じてもらえると思います。

地域材の素晴らしさを伝えるイベント「オクシズ森林の市」。静岡市には素晴らしい林業家、製材、木材加工業者、工務店がそろっています。第3回も、平成28年2月7日に静岡市林業センターで、各業界と力を合わせパワーアップして行う予定で調整をすすめています。



支部だより③

命を守る希望の森づくりプロジェクト

掛川市農林課・地域支援課

掛川市からは、市民・企業・団体・行政の息のあった協働により毎回多くの市民が参加するユニークなプロジェクトについて紹介をいただきました。

掛川市の概要

掛川市は、東経138度、北緯34度45分とほぼ日本の真ん中に位置します。静岡県においては、西部と中部の接するところにあたり、温暖で自然豊かな中東遠地域に位置します。人口は約11万8千人、面積は約266km²、海・山・茶畑が連なる丘陵地と多彩な趣に富んだ自然と街が調和した市となっています。

掛川の歴史は、まさに城と街道の歴史であり、戦国時代には戦略上、重要な拠点として、掛川城・高天神城・横須賀城の3つの城が建てられ、多くの武将たちがこの地をめぐる戦いを繰り返しました。また、江戸と京都を結んだ東海道の沿って、掛川・

日坂の2つの宿場町が栄え、さらに相良と信州を結ぶ「塩の道」の拠点でもありました。城を中心に形成された城下町は、500年余りに及ぶ歴史を持っています。

産業としては、自然との深い関わりの中で、先人たちはお茶や葛をはじめ、さまざまな地場産業を培ってきました。特に深蒸し茶は、掛川の特産品であり、全国茶品評会「深蒸し煎茶の部」で10年連続18回、産地賞を受賞しています。また、代表的な茶産地である東山地区で、130年以上前から継承されている農法が、生物多様性維持に貢献しているとして、世界農業遺産に「静岡の茶草場農法」として認定されています。



▲掛川城



▲東山地区「茶文字」



▲茶のみやきんじろう©掛川市

命を守る希望の森づくりプロジェクト

森林面積が市域の43%を占める掛川市では、東日本大震災を契機に、市内で森林再生活動を展開しているNPO法人^{とよのすのもり}の森クラブと連携し、市民・企業・団体・行政の協働による「命を守る希望の森づくりプロジェクト」をスタートさせました。このプロジェクトは、災害から人命を守り、生態系を育む防災環境保全林を再生・整備することに主眼を置き、①海岸防災林の再生、②山間部の森林再生、③市街の森づくり、④育苗、の4つの事業を重点的におこなっています。海岸防災林は松枯れで壊滅状態になっているため、地元自治会で組織されている掛川市海岸防災林保護組合などと連携し、植樹を実施し、防災機能の回復を図っています。人工林の荒廃が指摘される山間部の森林では、森林組合や市民団体と連携し、間伐などの森林整備を実施し、水源涵養機能や山地災害防止機能を高めています。市街地の緑化については、企業や市民団体と協力し、工場緑化や公園・街路樹の管理をおこなっています。なお、こうした森づくりには、多くの苗木が必要となることから、市内の小中学校や企業、市民団体、障がい者施設などで苗作りを奨励しています。「市民力」を最大限に発揮した森林整備のほか、市民が森づくりに直接関わることで、森林を永続的に守る意識や防災意識が育まれるのも狙いの一つとなっています。これまでにこのプロジェクトで、海岸防災林など11ヶ所に約8万2千本の苗木を植樹しています。



▲海岸防災林の再生

県庁だより①

未来への森づくりタウンミーティングの開催 ～森の力再生事業の今後のあり方について～

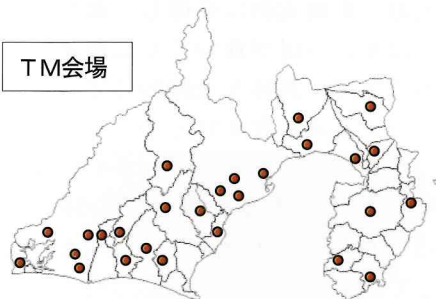
交通基盤部 森林局 森林計画課

森林計画課からは、県民や森林・林業関係者の方々から大きな関心が寄せられる「森の力再生事業」の今後のあり方について紹介いただきました。

未来への森づくりタウンミーティングを開催

県では、森林の有する「水源かん養機能」や「山地災害防止」などの「森の力」を回復するため、所有者による手入れが困難で緊急に整備が必要な荒廃森林について、平成18年度から「森林(もり)づくり県民税」を財源に「森の力再生事業」により整備を進めてきました。

平成27年度末には事業期間及び課税期間が終了することから、これまでの事業の成果と荒廃森林の実態などをお知らせし、今後の事業のあり方について県民の意見を把握するため、タウンミーティングを開催しました。4月から6月にかけて、県内27ヵ所で開催し、1,000人を超える県民の皆様に参加していただきました。



現事業の評価について

参加者からは「間伐の遅れた人工林の整備が進んだ」、「通学路沿いなどの手つかずの放置竹林が整備されて良かった」、「森林所有者や地域住民が森林に関心を持つようになった」など現事業の成果を評価する声が多数ありました。



▲掛川会場



▲富士宮会場

今後の事業のあり方について

一方で、荒廃森林や放置竹林が依然として多いことから事業継続を希望する意見や、継続を前提とした事業内容に対する要望が、多く寄せられました。

<特に要望の高かった森林整備の内容>

- ・シカ食害や手入れ不足のため下層植生が消失し、土砂流出のおそれのある人工林の整備
- ・台風や大雪による倒木被害地の片付け



▲土砂流出のおそれのある人工林



▲風倒被害地



▲放置竹林

- ・風倒木や土砂流出のおそれのある広葉樹林や放置竹林の整備
- <その他の要望事項について>
- ・事業や税の広報の充実
- ・生物多様性など環境に配慮した森林整備
- ・伐採した木材、竹材の利活用
- ・整備手法の見直し等

県民アンケート調査や市町長等訪問

タウンミーティングの他にも、様々な方から意見をお聞きする機会を設けました。

- ・郵送アンケート調査 (県内在住の20歳以上の男女5,500人)
- ・インターネットモニターアンケート調査 (公募507人)
- ・市町長等への意見聴取 (全35市町)
- ・経済団体等への意見聴取 (中央7団体、商工会議所・法人会等66団体)
- ・大学生との意見交換 (静岡大学)
- ・県民円卓会議

タウンミーティングと同様に事業継続を希望する声などが多く寄せられました。皆さんの意見を参考にし今後の事業のあり方を検討していきます。

県庁だより②

研究成果発表会を開催

農林技術研究所 森林・林業技術センター 技監 伏見 裕之

森林・林業研究センターからは、主な研究項目や最新の成果などを報告する発表会について紹介をいただきました。

森林・林業研究センターでは、去る6月5日（金）に研究成果発表会を開催しました。当日は、県内の森林・林業・木材業関係者、行政機関のほか、関東森林管理局など県外からも多数来所し、総勢約80名を数えました。発表後は、活発な質疑応答が交わされました。

発表の概要は、次のとおりです。

育種・育苗・育林

1 静岡型エリートツリーの開発

開発したエリートツリーの性能や試験林調査結果等について報告しました。平成33年度より種苗を出荷できるように、研究開発を進めます。

2 コンテナ苗の植栽

コンテナ苗の植え付け効率等の植栽事例を紹介しました。

3 精英樹交配苗の植栽成績と低コスト再造林技術（中間報告）

精英樹交配苗の成長測定結果、コスト削減状況及び課題について報告しました。

4 強度間伐後の土砂移動量の変化

強度間伐に伴う林床被覆率と土砂移動量の経年変化について報告しました。

農林業被害対策

5 ナラ枯れの新しい予防法

簡易かつ安価なトラップでカシノナガキクイムシを大量捕獲し、ナラ枯れを防止する方法を開発しました。面的な予防に向け、さらに研究を進めてまいります。

6 ミカン園および茶園をモデルとしたイノシシによる被害実態の把握とその対策

ミカン園場で自動撮影カメラを設置して調査した結果、イノシシのほか、ハクビシンが多く確認され、捕獲の必要性が判明しました。また、イノシシによる茶園法面の掘り返し被害については、ミミズなど土壌動物が関与していました。

7 電気によるイノシシのとめさしと銃によりシカの連続捕獲を可能にする技術

箱わなで捕獲したイノシシを電気によりとめさしする方法を開発しました。また、銃によりシカを連続で撃つことで効率よく捕獲する技術を研究しています。

8 銃？わな？それとも硝酸塩？安全な革新的シカ捕獲技術の開発

増え続けるシカを減らすため、硝酸塩添加飼料を給餌して安全に捕獲することに成功しました。今後は、シカ問題への理解を深めると共に、捕獲許可基準の整備や捕獲方法のブラッシュアップが必要です。

林産物需給一体化

9 シイタケほだ木を高温下で休養させたときの影響

猛暑を想定して通常よりも高い温度でほだ木を休養させシイタケを発生させる試験を行いました。通常の管理をすれば、数十年以内に問題になることはないと考えられます。

10 県産材を利用した新たな外構用部材の開発

スギ・ヒノキ・コナラについて、外構用部材の開発を進めています。

11 3次元計測カメラによる土場の原木材積計測技術の開発

開発した技術による原木認識率は95%程度でしたが、逆光・日陰では認識率が低下しました。改善を進め、平成27年度内の完成を目指します。

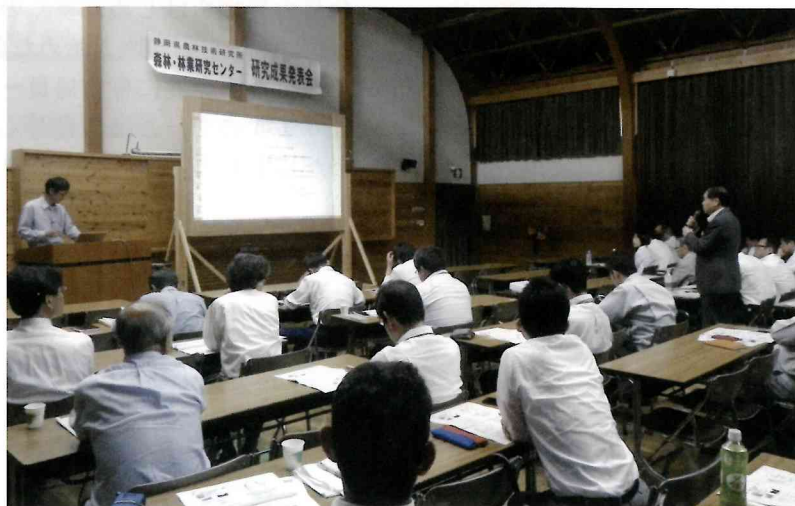
12 立木在庫情報構築のための技術手法—スギ林分のヤング率分布推定に必要なサンプル数は？

スギ立木在庫の材質情報を把握するのに必要なサンプル数を施業管理や生育環境、林齢推移等から解明しました。

13 架線系一貫作業の作業効率分析—新たな更新手法の開発に向けて—

国有林の協力により、伐倒～架線集材～地拵えの一貫作業システムの試験を行い、再造林コストの削減を実証しました。

なお、研究の詳細については、平成26年度(2014)静岡県農林技術研究所成績概要集（森林・林業編）をご覧ください。



本部情報

『第34回定時総会で退任・就任された役員の方々』

平成27年8月28日開催の第34回総会をもって、北村藤枝市長様、村松森町長様、鈴木森町森林組合長様、片桐龍山森林組合長様、片岡県木材協同組合連合会長様、橋本専務理事（以上理事）及び和田天竜森林組合長様（監事）が任期満了により退任されました。退任された理事監事の皆様長い間当協会の発展向上に多大なご尽力をいただき誠にありがとうございました。

新たに染谷島田市長様、松井掛川市長様、榛村掛川市森林組合長様、和田天竜森林組合長様、内山県木材協同組合連合会長様、林山林協会事務局局長（以上理事）及び片桐龍山森林組合長様（監事）が就任されました。

また臨時理事会では、会長に鈴木浜松市長様、副会長に菊地伊豆市長様、鈴木本川根町長様、榛村県森林組合連合会長様、専務理事に林山林協会事務局局長が選任されました。

この結果、これからの2年間を右表の新メンバーで協会運営してまいりますので、会員の皆様のご協力を宜しくお願いします。

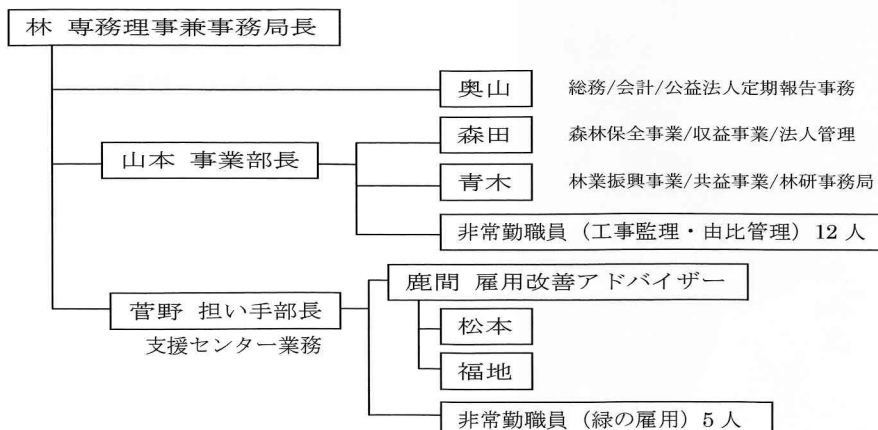
公益社団法人 静岡県山林協会役員（敬称略）

任期 H27.8.28 ~ H29総会日まで

職名	支部/全県	氏名	現職名	備考	
理事	賀茂	藤井 武彦	西伊豆町長	支部長	
		土屋 勝利	伊豆森林組合長		
	東部	菊地 豊	伊豆市長	副会長	
		込山 正秀	小山町長		
		伊東 修	田方森林組合長		
	富士	須藤 秀忠	富士宮市長	支部長	
		渡井 正孝	富士市森林組合長		
	中部	田辺 信宏	静岡市長	支部長	
		狩野 正明	静岡市森林組合長		
	志榛	太原	染谷 絹代	島田市長	新任 副会長
			鈴木 敏夫	川根本町長	
			山下 喜隆	森林組合おおいがわ組合長	
中遠	松井 三郎	掛川市長	支部長・新任 新任		
		榛村 航一		掛川市森林組合長	
西部	鈴木 康友	浜松市長	会長		
		岡本 均		春野森林組合長	
		和田 重明		天竜森林組合長	
全県	内山 弘	静岡県木材協同組合連合会長	新任 副会長		
		静岡県森林組合連合会長			
		公益社団法人 静岡県林業会議所理事			
		公益社団法人 静岡県緑化推進協会専務理事			
		公益社団法人 静岡県山林協会専務理事			
23名	中島 公望	フォレスターしずおか理事	専務理事・新任		
監事		全県	小野登志子	伊豆の国市長	新任
3名	片桐 滋人		龍山森林組合長		
	橋本 和男		静岡県山林種苗協同組合連合会長		

事務局だより

山林協会事務局組織図 H27.9.1 現在



*重複を除く非常勤職員数：15人

9月から下記の体制で協会業務を執行することとなりました。

会員の皆様をはじめ、多くの方々と一緒に、追い風が吹き始めた森林・林業の更なる発展に事務局員一同がんばりますので、ご指導宜しくお願いいたします。（林）

公益社団法人
「森と人」 静岡県山林協会
編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489